

ふちゅう歴史散歩 Vol.157

出土品に機械で注記する

備後国府跡の発掘調査では、大量の土器や瓦が出土しています。この土器や瓦に、出土した時の情報を書き込むことを注記といいます。注記は、その後の土器の観察や写真撮影に影響が少ない内側や裏側にひとつずつ手書きをしますが、大変時間がかかります。そこで、大量の出土品に対応するため、注記のできる機械を一定期間借りて作業をしています。

注記の熟練者の5倍の速さで印字できる機械により、作業の効率化が大きく進んでいます。

しかし、機械でも対応できない小さな破片や硯、陶磁器などは、これからもきつと手書きの注記が必要となります。

また、機械を使用する場合でも、最適な注記箇所を素早く判断しなければなりません。それは手書きの経験と熟練の技があってこそ初めて効率のよい注記が可能となり、考古学的な価値を持つ資料として、後世に伝えられるのです。

注記された情報

遺跡名: 2201T EKV3P 220129

調査区・出土した層: []

日付: []

機械注記の動画があります。国府まるひめチャンネルをご覧ください。

備後国府跡出土(須恵器)杯の口縁部の一部

機械の注記の文字です。土器の内側の端に注記します。

パソコン注記

パソコンに注記の情報を入力し、土器を置いた板を矢印のように右にスライドして印字します。

手書き注記

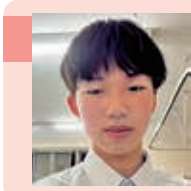
手書き注記は、面相筆と墨汁で土器の破片にひとつずつ記入します。

—市民レポーターが府中の魅力を投稿します—

ふちゅう Sai 発見!

「初志貫徹」

高校生編 その114



投稿者(文と写真)
府中高校2年
岡本 陽貴さん

残すところ約10か月。「今度は自分たちの番だ」という思いで日々勉強に励みつつ、部活動にも継続的に参加し、文武両道を図っています。もちろん、まだ時間があると胸をなで下ろしている自分もいます。いつの間にか時間が過ぎ、焦燥感に駆られるようなことだけは避けたいです。そこで、早いうちから勉強習慣を身に付け、長時間学習に慣れるようにしました。また、日々の学習においても計画を立てて取り組むようにしました。その結果、模試では苦手教科の力が見るみる伸びていきました。「継続は力なり」ということを実感させられた瞬間でした。

私の将来の夢は薬剤師になることです。「国公立の薬学部に行きたい」その気持ち一本で頑張ってきました。最初は勉強時間を増やせばよいと思っていましたが、全国には自分以上に努力をしている人がたくさんいることに模試の志望校判定から気付かされました。スランプになりかけた時期もありましたが、それでも人一倍負けず嫌いな自分はそのスランプを乗り切りました。

部活動も終盤に差し掛かり、思うように学習時間をとることが難しい状況の中で、隙間時間を見つけて1分1秒でも多く勉強できるようにしています。諦めず辛抱強く取り組み、一度きりの高校生活を悔いなく過ごしていきたいと思えます。

立の薬学部に行きたい」その気持ち一本で頑張ってきました。最初は勉強時間を増やせばよいと思っていましたが、全国には自分以上に努力をしている人がたくさんいることに模試の志望校判定から気付かされました。スランプになりかけた時期もありましたが、それでも人一倍負けず嫌いな自分はそのスランプを乗り切りました。

部活動も終盤に差し掛かり、思うように学習時間をとることが難しい状況の中で、隙間時間を見つけて1分1秒でも多く勉強できるようにしています。諦めず辛抱強く取り組み、一度きりの高校生活を悔いなく過ごしていきたいと思えます。

公式SNS



LINE



facebook



Instagram



メール



府中市メール配信サービス



スマホアプリ MY府中



iPhone



Android